



体内環境の正常化を目指したイムノリゾート構想を世界に発信するためには、よほどインパクトのある取り組みをしなればいけない。しかし、免疫学者である私には、「免疫保養地構想」をかなりのインパクトをもって世の中に発信させる自信があったし、それが北海道の活性化に繋がると今でも信じ続けてきている。

## 北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想 — 思いを持った人の輪が新しい北海道観光を創造する —

西村 孝司



い、北海道のためになるし、子育て問題にも重要だ」というコメントを述べた。

御研究所の小生の研究室にわざわざ訪問され、「君の仕事は素晴らしい」と。

べられ、激励してくれたい。戸田会長は「世の中を変えようと思うものは、自ら動くべし。北海道の開拓はまだ終わってはいない」と等と良くおっしゃっていたが、その通りに自ら行動されていた熱い、偉い方であった。木古内町札内出身の道産子として、勿論、自分の研究を北海道の活性化にと考えていなかった訳ではない。しかし、ともすれば、一流雑誌に論文を発表することのみを至上の喜びと感じる普通の研究者の一人だっただけに、戸田会長の激励は小生を「研究成果を北海道の活性化にも繋げる」という思いを一層かき立てる契機になったことは確かである。

免疫を北海道の活性化に繋げる糸口が小生の中に全くなかった訳ではない。それは、小生が専門とする免疫バランスの破綻によって、先進国でのみで年々増え続けているアレギー人口の増加問題と北海道活性化を結びつけることである。北海道には道南を除いてスギが殆ど生息しない。従って、花粉症の時期に北海道観光に訪れれば、全国に2000万人以上いると言われる人々とはとてもないストレスから解放されるはずである。これが、2年前から上士幌町の竹中貢町長と共に実施してきている花

粉症疎開ツアーを思いついでいた時に「これとして自分の能力を北海道の活性化にも還元できると知った瞬間である。日本でもスギがないのは、北海道と沖縄、奄美大島のみであり、他都府県ですらなくてもいい、何も準備しなくとも他地域の差別化ができる北海道のユニークな取り組みとなる。2、4月にしか実施できないスギ花粉疎開ツアーを契機に、「食」、「健康」、「環境」、「観光」、「医療」を横断的に結びつけた社会基盤を構築できれば、やがて、そのインフラは通年的な北海道観光になり得るイムノヒーリングツアーにも結びつき、北海道の健康バイオ産業の活性化や地域再生にも繋がって行くであろうと考えていた。

戸田会長がよく口にしていた「21世紀の北海道開拓にも匹敵するイムノリゾート構想展開のシナリオは小生の頭の中であり前にはできなかった。しかし、そのシナリオは机上の夢で、「夢が実現できない」というロジックを考えることには長け、夢を追いかけることを忘れた人々」には理解してもらえない、実現が困難な構想であることは十分承知している。このような健康バイオ産業の重要性やイムノリゾート構想の話は戸田会長の薦めで

道経連理事会でお話しさせていただいた時に「これでいい、北海道の将来だ」とおっしゃって下さった人は、北洋銀行武井正直前会長であった。このお二人のお陰で、小生は今、学者の本分である学問と共に、イムノリゾート構想実現へ向けての行動を異分野の「思いをもった」多くの方々の協力のもとで行うことができるという幸せに巡り会っている。

3番目に「イムノリゾート構想はなかなか良い発想だね」と言ってくれたのは、北海道ベンチャーキャピタルの松田一敬社長、そして、4番目に、偶然、〇寿司で出会う、小生の提唱するスギ花粉疎開ツアーによる北海道観光の活性化に賛同してくれ、その実践の契機をつくってくれたのは、今、夕張再生を請負、イムノリゾート構想もその柱に掲げてくれている加森公人社長と総務省地域再生マージャー事業でイムノリゾート構想を町の基本施策として打ち出した竹中貢上士幌町長である。

「健康を考える観光」の実現には、検査業界との結びつきも重要であるが、その点では、「健康バイオ産業活性化のための治験ネットワークを北海道に」という小生の提言を当初からサポートして下さった、大手検査会社SRL経営顧問で日本衛生検査所協会、赤石清美専務理事との出合いは大い。さらに、現在では、日本観光協会中里常務、JT-B清水常務、橋本聖子参議院議員、吉沢元副知事、坂本JR会長、石森秀三北大教授など

「健康を考える観光」の科学的根拠に基づいた健康を考える観光(ヘルスツーリズム)の北海道拠点の構築を目指して、NPOイムノリゾートセンターを設立するに至っている。

「思いを持った人の心は、思いを持った人が理解してくれ、思いを持った人の輪が新たな未来を創造する」という小生の信念はあながち間違いではないかもしれないと最近、この活動を通して実感している。

### 地域の取組

②下川町

下川町における森林療法は、下川町森林組合のトドマツ精油の商品開発に端を発しました。

平成十四年、林業雑誌の森林療法の記事に強い関心を持った奈須氏、現

「健康を考える観光」の実現には、検査業界との結びつきも重要であるが、その点では、「健康バイオ産業活性化のための治験ネットワークを北海道に」という小生の提言を当初からサポートして下さった、大手検査会社SRL経営顧問で日本衛生検査所協会、赤石清美専務理事との出合いは大い。さらに、現在では、日本観光協会中里常務、JT-B清水常務、橋本聖子参議院議員、吉沢元副知事、坂本JR会長、石森秀三北大教授など

「健康を考える観光」の実現には、検査業界との結びつきも重要であるが、その点では、「健康バイオ産業活性化のための治験ネットワークを北海道に」という小生の提言を当初からサポートして下さった、大手検査会社SRL経営顧問で日本衛生検査所協会、赤石清美専務理事との出合いは大い。さらに、現在では、日本観光協会中里常務、JT-B清水常務、橋本聖子参議院議員、吉沢元副知事、坂本JR会長、石森秀三北大教授など

「健康を考える観光」の実現には、検査業界との結びつきも重要であるが、その点では、「健康バイオ産業活性化のための治験ネットワークを北海道に」という小生の提言を当初からサポートして下さった、大手検査会社SRL経営顧問で日本衛生検査所協会、赤石清美専務理事との出合いは大い。さらに、現在では、日本観光協会中里常務、JT-B清水常務、橋本聖子参議院議員、吉沢元副知事、坂本JR会長、石森秀三北大教授など

「健康を考える観光」の実現には、検査業界との結びつきも重要であるが、その点では、「健康バイオ産業活性化のための治験ネットワークを北海道に」という小生の提言を当初からサポートして下さった、大手検査会社SRL経営顧問で日本衛生検査所協会、赤石清美専務理事との出合いは大い。さらに、現在では、日本観光協会中里常務、JT-B清水常務、橋本聖子参議院議員、吉沢元副知事、坂本JR会長、石森秀三北大教授など

## 森のチカラで人を癒す しもかわ森林療法協議会の取り組み

よる「しもかわ森林療法協議会」の設立につながりました。

同会は森林を活用した療法を中心に各種療法の研究、実践を行い、町民や都市住民の健康づくりの事業を進め、森林のまち下川として森林保養地の形成を目指し動き始めました。

②植物療法グループはトドマツオイル等を利用した病院、福祉施設でのアロマテラピーの実践研究。アロマオイルの作成研修を開催。

③子どもの森グループは幼児を対象とした森林体験の実践。講習会の実施。

④森林療育グループは知的障害者とともに森林体験を実施。

具体的な活動は、六

### どろろしく

ミスさっぽろ (札幌市)

青山 千景さん  
坂本 佳子さん  
中田 菜々子さん



ミスツインクル (札幌地区)

岡村 陽子さん  
上村 あかりさん  
飯森 衣さん  
大塚 文英さん



- 北海道観光連盟 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル2階 TEL (011) 231-0941 FAX 232-5064
- 北海道さっぽろ「食と観光」情報館 札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口 TEL (011) 213-5088 FAX 213-5089
- 北海道経済部観光のくにつくり推進局 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁8階 TEL (011) 231-4111 (代) FAX 232-4120

観光のお問い合わせは